

教 育 委 員 会 だ よ り

令和3年度 全国学力・学習状況調査 の結果について

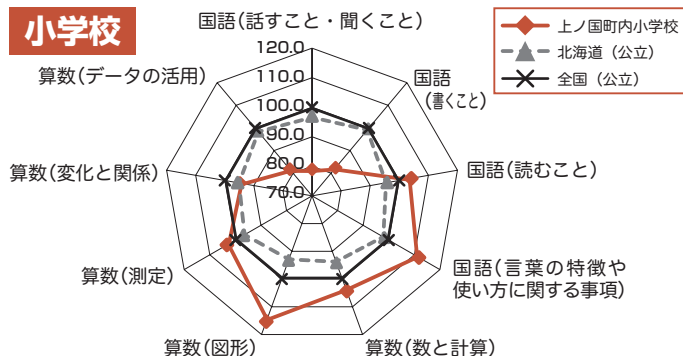
今年5月に町内の小学校6年生（19名）、中学校3年生（27名）を対象に行われた全国学力・学習状況調査の概要をお知らせします。学力調査は小学校6年生の国語・算数、中学校3年生の国語・数学の2教科で行われました。

1. 調査の目的について

本調査は児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを継続することで、検証改善サイクルを確立することを目的としています。本調査の結果は児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部であり、教育活動の一側面である事に留意が必要です。

2. 調査結果について

小学校



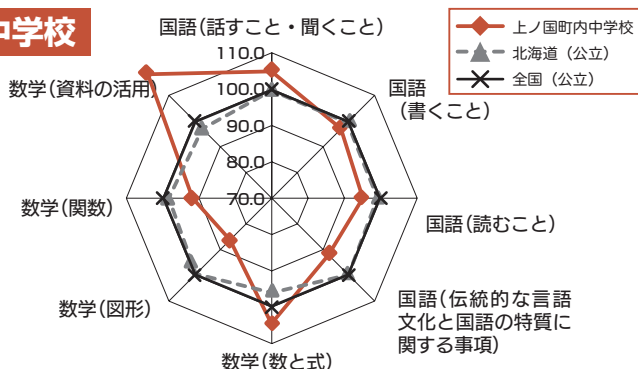
「小学校 / 国語」

・全体としては全国、全道とほぼ同程度です。領域別では「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「読むこと」の領域で全国、全道を上回っていますが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域については全国、全道を下回っています。

「小学校 / 算数」

・全体として全国、全道とほぼ同程度です。領域別では「数と計算」「図形」「測定」の領域で全国、全道を上回っていますが、一方で改訂学習指導要領で新たに設定された「データの活用」の領域については全国、全道を下回っています。

中学校



「中学校 / 国語」

・全体としては全国、全道とほぼ同程度です。領域別では「話すこと・聞くこと」の領域で全国、全道を上回っていますが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域については全国、全道を下回っています。

「中学校 / 数学」

・全体としては全国、全道とほぼ同程度です。領域別では「数と式」「資料の活用」で全国、全道を上回っていますが、「図形」「関数」の領域では全国、全道を下回っています。

3. 成果と課題について

成果

・小学校では、「将来の夢や目標をもっていますか」という問いに対して、9割の児童が肯定的な回答をしており、全国、全道を大きく上回っています。また、「算数・数学の授業は好きですか」という問いに対して小学校、中学校とも8割以上の児童生徒が肯定的な回答をしており、この点も全国、全道を上回っています。この結果は本町で児童生徒の意欲関心を高める授業が日常的に展開されていることを裏付けているものと考えます。

課題

・小学校では「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」という問いに対して、53%の児童が否定的な回答をしています。これは全国平均と比較しても23%多い数字であり、前述の国語の結果とも相関性のある課題だと考えられます。
・中学校では「自分にはよいところがありますか」という問いに対して37%の生徒が否定的な回答をしており、今後も思春期の生徒の自尊感情を高めることが課題であると考えられます。
・小学校では「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」という問いで否定的な回答が42%ありました。この数字は全国平均を10%程度上回っています。今後の新型コロナの感染状況とともに注視していく必要がある部分だと考えます。

4. 学力向上の取組について

本調査の結果からは、これまでの学力向上の取組が結実している部分が見えてきています。今後も多角的な分析を行い課題を明確にしていきます。そして、その課題解決に向けてはそれぞれの学校の経営方針に組み込み、学校全体として地域や家庭と連携しながら教育計画の内容を改善していきます。加えて、ティームティーチングや少人数指導などを継続していきます。更に、一人一台端末の態勢の整備を進めるとともに、児童生徒理解を丁寧に行いながら、個々の児童生徒の自尊感情を高めていくよう努めていきます。